

編輯室の内外

歳、茲に斯たまり昭和五年を迎へた、讀者諸子の健康と幸福とを祈る。

舊歲より御約束した記念號を刊行するに至つた、各誌の新年誌上に筆を執るの責める執筆者各位が、本誌の爲に特に多大の勞苦を忍び名論を寄せられたのは、我が路政の爲讀者と共に感謝措く能はざるところ、唯た措むらくは我國經濟史の權威者瀧本誠一博士の名論を見ざることである。併し博士は執筆を快諾された後風邪に罹られ遂に寄稿を得なかつたのである、之に代ふるに瀧川博士や慶大の増井教授の玉稿を得たのは編輯子の頗る満足する所である。

殊に府縣會開會の折柄にも不拘、有名な地方長官が特に寄稿されたことに對しても深甚の敬意を表する、又今は京都帝國大學經濟學部の諸士が執筆されたことは、老成大學の夫れに比して我が學界研鑽の程度を表はしたものとも言ひ得べく、編輯子は常に京大が斯た生氣の研究に力むることを欣で居たが、今夫れを如實にし、頗る満足する。

懸賞論文は登載した通りであるが、多數應募者の内には現内閣の道路政策に對し非難し又は攻撃するものが多く、是等は現内閣の施政が國民の要求と餘りに遠ざかつて居ることを物語るものであつて、編輯子も其の感を同じくするのであるが、唯た夫れを非難攻撃するだけは論文募集の趣旨に反するものと認め、遺憾ながら之を採用しないに至つた、惡からず諒承を願ひたい。

本誌定期 五十銭
一ヶ年分 金六圓
但し本號に限り會員、贊助員
以外は金貳圓

東京市麹町區大手町一丁目内務省内
編輯者 小島 效
發行所 社團道路改良會
印刷所 堀江關武

寛怒を乞ふ。

終りに、從來路政僧が本誌編輯の任に方つたのであつたが、十年も之に關係すれば事物は萬事提げれ易く爲つて固定的になる傾向がある、従つて讀者諸士も亦飽きが来る、仍て本誌以後の編輯は新人に譲ることにして新味を發揮することにした。

(路政僧)